

## 単元名 郷土の民謡や芸能【旧】

配当時間 3時間

単元の目標 (1) 声の音色及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解するとともに、創意工夫しを生かした表現で歌うために曲種に応じた発声の技能を身に付けることができる。  
 (2) 声の音色及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解し、曲種に応じた発声を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫することができる。  
 (3) 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

12260305\_001

【教材名】 子守歌 谷茶前 くらしとともにあるさまざまな音楽 (下 P. 18～P. 19)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1 「子守歌」を歌う。 ○歌詞を音読し、内容を理解する。 ○声の出し方を工夫する。 ○曲想や発声を生かして、子守歌を歌う。	・歌詞を音読し、言葉の意味や内容を理解させる。 ・赤ちゃんをあやすときの呼びかけやあやし言葉であることに気付かせる。 ・「ねんねころころこや～」や「ナンチャマシマシ～」の歌い方を工夫させる。 【評】曲種に応じた発声や言葉の特性を理解し曲種に応じた発声で歌唱表現する活動を通して、「知識・技能」を評価する。
2 「谷茶前」を歌う。 ○歌詞の大意を知る。 ★音階の違いや楽曲の背景などを生かして、表現を工夫しよう。 ○曲の特徴や雰囲気にあった表現を工夫する。 ○伴奏を加えて歌う。	・音楽の背景や歌詞の大意を理解させる。 ・「子守歌」と「谷茶前」を比較し、歌う目的や音階の違いなどに留意して歌唱させる。 ・曲想を生かした演奏を心がけさせる。 【評】曲種に応じた発声を生かして歌唱表現を創意工夫する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・アルトリコーダーや打楽器の伴奏を練習させる。 ・曲想を生かした演奏を心がけさせる。 【評】歌唱表現に主体的・協働的に取り組む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
3 「天台声明」「布農族の合唱」「ゴスペル」「ブルガリアの女声合唱」を鑑賞する。 ○諸外国の音楽の特徴を知る。 ○我が国と諸外国の音楽の違いを話し合う。 ○それぞれの楽曲を味わう。	・我が国と諸外国の声の出し方や音楽の特徴や多様性を理解させる。 【評】声の音色及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて話し合う活動を通して、「知識」を評価する。

## 【 備 考 】

「子守歌」では、赤ちゃんをあやす声の出し方で表現を工夫させたり、旋律の繰り返しによる構成を理解させたりする。「谷茶前」は、踊りや楽器の演奏とともに歌い合わせるため、歌と囃し言葉や伴奏楽器などとの関わりに着目させて表現を工夫させる。くらしとともにあるさまざまな音楽では、鑑賞活動だけではなく身近な地域の民謡や芸能、祭りの音楽などを調べる活動を通して、表現する機会や目的、保存の現状など音楽の背景も理解させるようにしたい。

【共通事項】 音色・リズム・旋律・テクスチャ・強弱